

科目名	地域マネジメント Regional Management		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・月・3 限	秋・月・6 限	-	-
担当教員名	里見 泰啓	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>地域を捉える側面は多様であり、地域を先導する主体も多面的である。この講義は、地域経済や産業、企業に注目する。そして、地域が持つ資源（自然条件、生産要素の賦存、専門化した技術など）を活かし、地域発展のために「時代の潮流に対応し、資源を効率的に地域活性化に結び付ける行動」を地域マネジメントと捉える。</p> <p>この講義では、地域経済の成長発展や地域の経済循環をどのように捉えるかといった、地域を鳥瞰（鳥の目）する枠組みとともに、具体的な地域活性化の取り組み（現場の目）を講義していく。それとともに、既存の理論と現実の論理の共通性と差異を考えながら受講生が問題を発見する。</p> <p>このような講義、討議を通して地域のキーパーソンとして、地域経済や地域産業の現状を捉え発展可能性を考える基礎を身に付けることを目標とする。</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 週目：〈地域マネジメントとは何か〉 経済活性化における地域の位置づけ、地域マネジメントとは何かの概説と講義の概要と進め方を紹介する。</p> <p>2 週目：〈地域経済の分析枠組みⅠ〉 地域の経済循環、地域の所得決定について講義する。</p> <p>3 週目：〈地域経済の分析枠組みⅡ〉 地域間交易、地域経済の成長要因について講義する。</p> <p>4 週目：〈地域産業分析〉 地域産業連関分析と地域産業集積の特質について講義する。</p> <p>5 週目：〈地域活性化の主体〉 行政機関の他、業界団体や産業支援組織、企業にも注目しながら、地域活性化の諸側面と地域マネジメントの主体について検討する。</p> <p>6 週目：〈地域の可能性について ディスカッションⅠ〉 受講生の関心事を基に地域発展の可能性を討議する。</p> <p>7 週目：〈柔軟なネットワーク構造のなかでの地域マネジメント〉 柔軟なネットワーク構造のなかでの企業連携による地域活性化の取り組みを検討する。</p> <p>8 週目：〈地場産業の振興と地域マネジメント〉 地場産業の再生を目指した取り組みについて検討する。</p> <p>9 週目：〈中山間地域における地域マネジメント〉 地域再生に向けたコンセンサスを形成した企業家活動を検討する。</p> <p>10 週目：〈地域ニーズに根ざした事業創造〉 ソーシャルビジネスを中心に地域の経済厚生を高める可能性のある事業創造について検討する。</p>				

11 週目：〈地域間連携と地域マネジメント〉

地域の発展にとって他地域との連携・協力も重要である。地域間連携を形成する取り組みを検討する。

12 週目：〈国の地域政策と自治体の振興策〉

国、都道府県、市区町村、それぞれのレベルで地域政策が進められている。それぞれの特質とともに行政の役割について検討する。

13 週目：〈信頼の構造〉

様々な主体が関わる地域マネジメントにおいては主体間相互の「信頼」が重要になる。信頼関係とはなにかを検討する。

14 週目：〈地域マネジメントの戦略（リスクと信頼） ディスカッションⅡ〉

地域マネジメントの要は何かを討議する。

15 週目：〈まとめ〉

授業内容振り返って、地域マネジメントをどのように消化し実践していくのかを検討する。

<講義の進め方>

講義を中心に授業を進める。小レポートをもとに、受講生のディスカッションを重視する回を設ける。

<準備学習内容>

SNSに掲載する講義資料に事前に目を通してください。また、授業のなかで紹介した文献、講義資料による復習を重視してください。

<教科書及び教材>

教科書は特に指定しない。講義ノートを配布する。

<参考書>

適宜、文献や資料を紹介する。

岡田 知弘 川瀬 光義 鈴木 誠 (2007)『国際化時代の地域経済学 第3版』 有斐閣
池田潔 編著 (2014)『地域マネジメント戦略』 同友館

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しない。

小テスト①30% 小レポート②30% 最終レポート 40%によって評価する。

<履修条件> 特になし。

<DVDによる視聴> 可

<オフィスアワー> 月曜5限 事前に連絡してください。

<その他> 特になし。